

文芸

芸術学科 文芸コース

TR テキストレポート科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目 必 必修科目 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2024年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

文芸コース専門教育科目

STEP①

文学の広く豊かな世界を深く知ることを目指す。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文芸特講 1	文章表現の構造と技法	S	必	2		どのように書けば文章が表現になるのか？ 文章を書く上での初歩的な知識と理論を基礎から学ぶ。
文芸特講 2	文脈を読む	S	必	2		どのように読めば文章をより深く理解できるのか？ 文章を読む上での基礎的な思考法を理解する。
文芸演習 1	対象を観察して書く	S	必	2		観察を鍛えずして語彙は増えない。また単に見るだけの観察でも表現力は磨かれない。観察という行為性の意味を学び、観察の結果を自身の表現で言語化できるような実践の場を体験する。

STEP②

文芸で表現できるものをさまざまに実践する。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文芸特講 3	古典を読む	S	必	2		日本の古典文学をより深く読み、日本語による文学的表現の歴史と特質について学ぶ。
文芸特講 4	小説の構造と技法	S	必	2		主として物語に注目し、小説という表現を通してわたしたちが求めている(あるいはとらわれている)、「なにか」を探っていく。
文芸演習 2	小説を書く	S	必	2		フィクションの文章を書く基礎力を養成する。小説とは、現実とはまったく違う世界を「才能」によって無から作り上げるのではなく、いわば読むことと書くことの往復運動の中から生成される言葉のつらなりと言ってよいだろう。「小説」を書くことへの足がかりを、実践的な課題を通して提供する。
文芸演習 3	文芸批評を書く	S	必	2		具体的な作品に即して近現代の批評作品に触れ、批評が取り組んできた問題を知り、その方法と表現を読み解く
文芸演習 4	エッセイを書く	S	必	2		エッセイは自分の感情を見つめ、五感をとぎすまし、「想い」という目に見えないものを言葉で伝える文芸である。想いが伝わる文章とは何かを考え、エッセイを読むことと書くことの両方の魅力を学ぶ。

自分のテーマを見つけ、それを表現する方法を探る。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文芸特講5	編集の構造と技法	S	必	2		表現を磨く上で、また表現を継続する上で、編集という思考方法の持つ効果と意義を理解し、かつ実践のために理論を学ぶ。
文芸特講6	小説を読む	S	必	2		小説とは何か。文体とは何か。表現をより深く考え、より強く実践するために必要な「読み方」を学ぶ。
文芸演習5	自分の主張を交えて書く	S	必	2		借り物の言葉ではなく、しっかりと自分の言葉を編み、いかにしてそれを表現として他者に届けるか。伝わる言葉の書き方を初歩から学び、同時に自分をそこに表出させる理論を体得する。

学びの集大成として卒業制作を完成させる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
卒業制作準備		S	必	2		卒業制作の前段階として、どのような表現をつくりたいのかを構想し、かつ他者と共有できるように計画し、合評会や教員のアドバイスを経て、「誰に・何を・どう伝えるか」を見定める。
卒業制作		S	必	2		これまでの学んだ成果の集大成として、各自が目標とする表現を完成させる。

・文芸コース専門教育科目のS科目は、オンデマンドによる遠隔授業です。3ヶ月ごとに開講され、「春期・秋期」の開講、「夏期・冬期」の開講に分かれています。
 ・「卒業制作準備」は4年次の夏期開講、「卒業制作」は4年次の秋期～冬期開講です。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります(芸必修=芸術学コース必修、歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)。
 ※アートライティングコース在学生在が履修できない科目もあります(ア履修不可)。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学基礎	TR	2	有	芸術の理論的研究に取り組むために必要な基本的語彙(キイ・ワード)の意味を理解する。あわせてそれを実際の作例に即して考えることを試み、感性的な対象に向けての理論的な思考を培うことを目標とする。※芸必修
美術史学基礎	TR	2	有	日本・東洋・西洋美術史学の研究に親しむための入門科目。具体的な作品研究を扱う優れた文献購読を通して、作品をどのように見たいのか、また作品をどのように解釈したいのか、という美術史研究の基礎を実践的に学ぶ。
地域芸術理論	TR	2	有	地域環境は、季節や行事など色々な要素の周期的繰り返しによって規定される特定の型をもった場所である一方、それはいつも可変的な状態にある。地域環境における具体的な「生」の姿を注視することにより、その「生」がどのようなカオスと闘ってきたかを考察する。
京都学入門	TR	2	有	1200年を超える歴史を積み重ねてきた「京都」。その伝統と創造が繰り返されてきた歳月をいかに学ぶべきか。テキスト『京都の歴史』を通じて、京都を学ぶための基礎を構築することを目指す。※歴必修
史料学基礎	TR	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料にはさまざまな種類があり、その特質など史料論を理解する科目。※歴必修
史料講読基礎	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料を読むための基礎を理解できる科目群。※歴必修
日本文化の源流	TR	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得るためのテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	2	有	
日本の生活文化	TR	2	有	

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学概論	S	1		芸術活動は古くから人々の関心を惹き続け、それを巡るさまざまな議論が重ねられてきた。芸術の諸領域にまたがる基本的な問題をいくつか取り上げ、これまでどのようなことが論じられてきたのかを概観するとともに、芸術学の立場や方法を講じる。※芸必修
美術史学概論	S	1		美術史を学ぶための入門科目。日本・東洋・西洋の著名な美術作品を取り上げながら従来のさまざまな研究について学ぶ。過去の研究の方法論を学び、残された課題や新たな研究の可能性を模索する。※芸必修
日本美術論	S	1		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	1		美術史研究のさまざまな方法論を学びながら、作品について理解を深め、西洋美術史研究のための基礎的な能力を身につける。
アジア美術論	S	1		[中国] 世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島] 高麗時代から李朝時代までの約1000年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
音楽文化論	S	1		音楽を文化的システムとして考えることから、さまざまな音楽文化現象を読み解く。
京都の歴史	S	1		[京都文化論] 日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的な事柄を、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的な理解を目指す。※歴必修
文献資料講読	S	1		古文・漢文などの歴史的な史料を読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。※歴必修
京都学研修1	S	1		「京都」は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史や伝統行事の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切に、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。
京都学研修2	S	1		
江戸の歴史	S	1		江戸は、いうまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的な理解を深める。
詩歌と日本文化	S	1		和の伝統文化を構成する「芸能」、「工芸」、「詩歌」、「花道」等について、その歴史や思想に関する幅広い基礎知識を講義形式で学ぶ科目。※和必修
伝統芸能と工芸	S	1		
室礼ともてなし	S	1		
伝統芸能の諸相	S	1		
花道文化の展開	S	1		
伝統文化の空間	S	1		

研究成果を卒業論文にまとめる。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次				
論文研究基礎演習	TX	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。※履修不可※文2024年度以降入学生履修不可
論文研究基礎	S	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見出ししていくのかを学ぶ。課題の論文についてグループで討議をしたり、個人で要約作成に取り組むことで、先行研究に対する客観的批判力を養う。※歴必修※履修不可※文2024年度以降入学生履修不可
3年次				
論文研究特論	S	1		歴史・美術史・芸能史などの専門家による研究成果の一端を講義で学ぶ。専門家の研究内容から、最新の研究成果を知るだけでなく、データの収集方法、史料の解釈の仕方、論理の立て方など、論文を書くためのヒントを学び取る。※歴必修※履修不可※文2024年度以降入学生履修不可
論文研究 I-1 (文芸)	S	1		卒業研究の前段階として、自らの創作・研究を発展し、ゼミ形式で合評を行う中で卒業研究への足がかりとする。 ※文2022年度以前入学生のみ履修可
論文研究 I-2 (文芸)	TX	1		
論文研究 II-1 (文芸)	S	1		
論文研究 II-2 (文芸)	TX	1		
4年次				
論文研究 III	TX	2		「論文研究1」「論文研究2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。 ※履修不可※文2024年度以降入学生履修不可
卒業研究 (文芸)	TX	8		各自の設定した主題にもとづく論文を指導。※文2022年度以前入学生のみ履修可